

令和5年度 第2回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和6年1月17日(水)午後1時30分～3時00分

○場 所 能代山本広域交流センター第1研修室

○新委員 能代青年会議所 理事長 今野 孝嶺 様

○案 件

・能代市人口ビジョン改訂及び次期総合戦略の策定について

別添「能代市人口ビジョン改訂及び次期総合戦略の策定について(P2～4)」により説明

○情報交換(以下、能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員名簿順)

●能代商工会議所

人口減少に伴い、購買する方が少なくなり、小売店や商店などは厳しい状況となっている。全国では、コロナの影響により廃業となってしまった例もあるが、能代市内ではコロナによる目立った動向は無かった。

ここ最近の動向としては、事業継承が上手くいかず、廃業に繋がっているのが多いという現状。能代商工会議所としては、事業継承に関するセミナーや説明会、個別の相談会を行うことで支援していきたいと考えている。

●二ツ井町商工会

創業支援や事業承継支援を行っている。青年部では、子どものころの夏祭りが楽しかったなどと話題になる。子どものうちから地域に関わるのが大事だと思う。市内企業も知らないだけでそれぞれに魅力はあるのではないかと。

●秋田県立大学木材高度加工研究所

秋田県立大学としては、地元の子どもたちが入学できるよう推薦入試等を行っている。

また、県外の社会人の方も働きながら大学院に入学できるよう力を入れており、2～3年程度、木材に関する研究等を行っている。

全国的に子どもが少なくなっており、大学によっては修業年限を伸ばしている学部(医学部のほか薬学部など)もある。

●能代地区高校校長会

能代市内の高校は定員割れが続いている状況。

今後も定員割れが続いていくと思われるが、それを逆手に取り、一人ひとりに目が届きやすい状況であることから、生徒に対し丁寧に指導することを心がけ、生徒、保護者、地域のニーズに応えていきたい。

●能代公共職業安定所

有効求人倍率が能代は1.80。多少の変動はあるが、2、3年前からずっとこの水準。有効求人倍率が高いことは、深刻な人手不足であることを意味する。

今年度卒業予定の高校生の就職について、11月末現在で121人が就職希望だが、県内就職の割合は57.9%で県内最低。さらに女性は23人しかいない状況。県内就職内定率は55.2%で、こちらも県内最低。女性の県外流出が甚だしい現状が見える。

くるみん(育児支援に積極的な企業)、えるぼし(女性活躍に積極的な企業)の認定も能代管内は無い。

●秋田県山本地域振興局

秋田県の最重要課題として人口減少、少子高齢化が挙げられる。

こうした課題を克服するため、新秋田元気創造プランに基づき様々な施策等を展開している。

○人口減少:県全体のピーク時は135万人、現在約91万人

(能代山本管内の人口は約7万人で県全体の7.6%という現状)

能代山本管内の人口は平成25(2013)年から令和5(2023)年の10年間で約1万6千人減少している。(減少率18.9%)

○年齢別の人口割(令和4年度調査)

・14歳以下…県全体で9.3%(能代山本管内7.7%)

・65歳以上…県全体で38.6%(能代山本管内44.0%)

人口減少の要因としては、社会動態として、大学進学・就職等(特に若い女性)の転出が多いこと、自然動態として、出生数の減少及び高齢化に伴う死亡数の増加が挙げられている。

●秋田銀行 能代支店

女性が流出している。その理由は把握しているのか。

(事務局)明確な回答はできない。推測の域を出ない。アンケートの集計でいくらか明らかになる部分もあると思う。

→戻ってきてもらうためには「なぜ」を深堀しなければ対策しようがないと考える。

跡継ぎがいなくて廃業する事業者がいる、さらに働く場がなくなる、負のスパイラルになっている。これを断ち切ることができるのは行政ではないのか。

昨年の出生数が150人と新聞で見て憂慮している。

●北都銀行 能代支店

従業員に対し、制度休暇の取得を促すことでライフ・ワーク・バランスを図ってもらい、結婚・妊娠・出産・子育てに繋がっていくよう呼びかけしている。ただ、昔とは違い、社内結婚が急激に減っていると感じている。(銀行内の婚姻率は下がっているわけではない。)

●連合秋田能代地域協議会

資料中、デジタル田園都市国家構想総合戦略で、基本目標の一番目に「地方に仕事をつくる」がある。大変大事だと思う。職業安定所のお話からは、人手が足りない中で、職種、働く環境が男性向きに見える。就職マッチングの難しさを感じる。イメージアップが必要なのではないか。資格を持っている女性がチームリーダーになっているなど、地域で活躍している女性の姿を見せていけたらよいと思う。女性をないがしろにしている訳ではないと思うが、活躍できる環境が確立されていないと考えられる。

●能代青年会議所

青年会議所は、20～30代の若者が集まり、まちづくりに取り組む団体だが、人口減少に伴い急激に会員数が減っており、何かイベントを行うにも人手が少ないため、小さなイベントしか実施できない現状。

こうした現状に伴う対策として、3つの取組を実施している。

- ①周辺地域の青年団体との協力(ある程度のマンパワーを確保できる)
- ②関係人口に対する取組(バスケットや宇宙をテーマに)
- ③シチズンシップ教育(高校生向けに地域の課題解決に取り組む機会を提供)

●能代市自治会連合協議会

魅力の発信や関係人口作りがこれからさらに必要ということだと思う。小中学校のころから「地域が好き」と感じる事が大切。能代の特徴、二ツ井の特徴、企業の受け皿、どれも大事で連携して発信しなければならない。

●二ツ井地区区長連絡協議会

人口減少や少子高齢化により、町内会役員の後継者としてのなり手不足が顕在化しているほか、各町内会行事への参加意識が希薄になりつつ、町内会の存続危機に拍車をかけている。

町内会について根本的に見つめ直す時期にきていると感じており、女性が参画しやすい新たな町内会の在り方について模索していきたいと考えている。

●能代市連合婦人会

全体的に会員は減っている。婦人会と名乗っているが、定年後の活動場所として、性別に関わらずボランティアなどに携われるように考える時期かもしれないと思う。

(道の駅ふたつ直売所出荷友の会の立場から)道の駅には来館が多くあるが、能代市内からの出品が少ない。特に農作物は、出してくださいと言ってすぐに出せるものではない。

人口は今後、まず増えない。地域の楽しさを伝えることでイメージチェンジしないといけない。

●東北電力ネットワーク株式会社 能代電力センター

人口減少に伴い、労働力の確保と技術継承が課題となっている。

もともと電気工事を希望する人が少ないため、ここ最近では新卒が入らず、定年退職を迎える従業員が増えてきている。将来的には労働力を確保し、今の技術レベルを維持しなければならないため、技術継承も含めた取組として、就職説明会への出展や市内高校を対象としたPR等を行っている。こうした取組が功を奏し、1名の方が内定中となっている。

●能代郵便局

入社3、4年目の社員の離職率が高くなっている。金融や保険の部門では、コロナ禍を経て、営業活動が戻ってきているが拒否感があるようだ。配達も天候に関係なく働く職場環境。定年退職の人が多い時期を迎えているが、さらに2024年4月から、物流の労働時間の上限規制で人手が必要となる。求人しても集まらず厳しい状況。